

一般社団法人 日本漢方協会主催
2023 年度・漢方総合講座(第 33 回)3 月のご案内

- 日 時 : 2024 年 3 月 17 日 (第 3 日曜日)
午前 10 時 00 分～午後 4 時 10 分
- 場 所 : 全水道会館 4 階【アクセス】JR 水道橋駅 東口 徒歩 2 分
<東京都文京区本郷 1-4-1 全水道会館 4F 大会議室
- 内 容 : 10:00～10:55 漢方の基礎理論「添付文書・有害事象」 中村成代学術委員
11:05～12:00 生薬解説「大黄」 千葉和美学術委員
..... 休 憩.....
13:00～14:30 漢方の古典・歴史「千葉学派の流れ」 並木隆雄先生
*国際医療福祉大学病院教授 藤門会会長
14:40～16:10 漢方トピックス「歯科領域の漢方」 新美知子先生
*内閣府第 4 合同庁舎診療所院長
- 講師や内容変更が生じた場合は、日本漢方協会ホームページでお知らせ致します

【 受講申し込み方法：単回受講も Google フォームからお申し込み頂けます 】

【年間受講生 Google フォーム】

URL : <https://forms.gle/7NA9oRTejY2mLHJq8>

* ホームページの『年間受講生用 Google フォーム』より出欠席をお知らせください。

* 申込締め切り：令和 5 年 3 月 6 日(水)



年間受講生用

【会員(年間受講生以外)・一般(非会員)Google フォーム】

URL : <https://forms.gle/BXTN73tjCRX1rUH5>

* 当協会ホームページ『2023 年 3 月 17 日(日)講座内容および申し込み方法のご案内』よりお申し込みください。

* 申込および振込締め切り：令和 5 年 3 月 6 日(水)

参加費：会員：9,000 円 一般：11,000 円 (会場、Web 参加共)

お振込みの確認をもって、申込受付といたします。

<振込先> ゆうちょ銀行 口座名称：一般社団法人日本漢方協会
金融コード：9900 店番：019 預金種目：当座
店名：〇一九(ゼロイチキュウ) 口座番号：0603133

* 受講料のお振込確認後、参加当日の詳細をお知らせいたします。

* PECS で本講座を初めてご参加される方は、受講に関する誓約書、薬剤師名簿登録証写し、本人確認書類等をメールまたは FAX でご提出をお願いいたします。

(誓約書はホームページより取得可能です) 提出期限：3/6

* お振込み後の返金は致しかねますので、ご了承ください。

(規定の申込登録・受講時間規定等を満たした場合、漢方薬・生薬認定薬剤師の必須研修単位が取得できます：3 月は 3 単位です)

* QR コードの開始受付時間は講義開始 15 分まで、終了受付は講義終了後となります。この時間以外で入退室された場合、単位は認められません。

* 講師以外は講義中マスク着用のご協力をお願い致します。



会員・一般用

日本漢方協会事務局

〒130-0026 東京都墨田区両国 2-17-19 PAZ 両国 6 階
TEL/FAX : 03-6659-9980 E-mail : j.kampo@jeans.ocn.ne.jp

<http://www.nihonkanpoukyokai.com>

業務時間：月曜日～木曜日<午前 10 時～午後 4 時>

*お問合せはメールでお願い致します

日本漢方協会通信—② 2024年3月

漢方は『体解：たいげ』

会員 渡辺方乃

35年ぶりに再開したスキーも今年で3年目、相変わらず思うように滑れずスキースクールに入りました。

そこで、インストラクターから一言『この二時間の講習で進歩できると思わないでくださいね。僕たちは練習方法をお示しするだけです。それを自分なりに行うかどうかはあなた次第です。』

そんなこと言われてもと思いつつ、スキーを履いたまま『けんけん』したり、『スキップ』『後ろ向き滑り』など老体にムチ打ち自主練習。疲れ果てて本日最後の一本と決めて滑り始めた時のことです。「あれ、私スキー板の真ん中に乗ってる」「ちっとも太もも痛くなくて疲れない」「勝手に曲がる」「スピード出てるよ！」なんと気持ちの良いことよと、無事けがせず帰ってこれました。ふと思ひ浮かんだ言葉が、『体解』。

縁あって毎週金曜日にメールで届く言葉でした。下記にご紹介します。

薬師寺執事長の 大谷徹英、『メール de 法話会』「気になる言葉」シリーズより

経文に「体解」とあります。仏教的な難しい解釈はありますが、ここでは「意識をすることなく、身体が自然に動く」と理解してください。

大相撲で活躍している隆の勝伸明関とは、関取が入門した頃からのご縁です。10年目に関脇という地位に就いた時に『調子良さそうだね』と声を掛けると、『体が自然と動くようになって来ました。稽古を重ねたおかげです』と、嬉しそうな顔で語ってくれました。

薬師寺の朝勤行は午前5時からと定められています。若い頃は夜更かしをすることも多く、起きるのが辛くてたまりませんでした。しかし、苦しくても日々繰り返したおかげで、勤行こそ僧侶の最も重要な勤めであることが自覚でき、今では目覚まし時計が鳴る前に目が覚め、楽しくお堂に向かいます。

所作(体の動き)を見れば、その人の修練の度合いがわかります。一言で「体解」と言いますが、真に「体解」するには長い時間がかかります。だからこそ「修行は一生」なのです。合掌

さて、当協会の漢方総合講座も4月から34回が始まります。今期は『傷寒論』を再度取り上げ一年間でとりあえず全編を学習する予定です。また、昨年、傷寒論分科会をZoomで再開し、『傷寒雑病論』をテキストに桂枝湯に注目して条文を読み進めてきました。始めから順番に読み進めるのも一つですが、最後まで全部読んで全体をつかんだ後で、薬方や証の位置づけや特徴を眺めてみると、新たな発見があるように思います。その一部は、昨年の学術大会で発表させていただきました。今年も継続して桂枝湯について考察していくのと同時に、講座に合わせて漢文の訓読・読み下し文の作成に挑戦していく予定です。

漢方にもいろいろな流派や中医学などもあり、修得の方法も様々だと思いますが、私はやはり『傷寒論』に始まり『傷寒論』に終わる、とっております。(特に暗記が苦手で、脳みそが拒絶する私には、いやいやでも何回も読まざる得ない状況にするしかありません。)

同じ条文を読んでも、ふと“腑に落ちる”時がありませんか。また、講義を受けた次の日、

“あ、今日の相談のお客様、昨日習った薬方にピッタリだ”といったことを度々経験します。

また、高木嘉子先生のお言葉だったとおもいます。『患者さんが入ってきたときに、この薬方ってピンとくるのよ。そのあと四診で確認していくの』単純に“勘”だとか、“インスピレーション”“天才”ではかたづけられない、永年の修行(勉強?)による『体解』だと思います。

「その本質を理解すること」「頭で理解するだけではなく、しっかり身につけた行いをし、身体で修得すること」、何事も継続は力なり、『体解』のあの瞬間の快感を求めて、“何度でも何度でも”“10000回ダメでへとへとになっても、10001回目は何か変わるかもしれない”。今年一年『傷寒論』とお付き合いください。